



あかし本のまちビジョン

～本とつながる・本からつながる～

明石市

目次

あかし本のまちビジョンの位置づけ

第一章 あかし本のまちビジョン

- 1 はじめに
- 2 本のまち推進の方向性と大切にしたいこと
- 3 本のまちが目指すイメージ
- 4 本のまちを推進する人や場所
- 5 本のまちを推進するために市が取り組むこと

第二章 これまでの取り組みとビジョン策定の過程

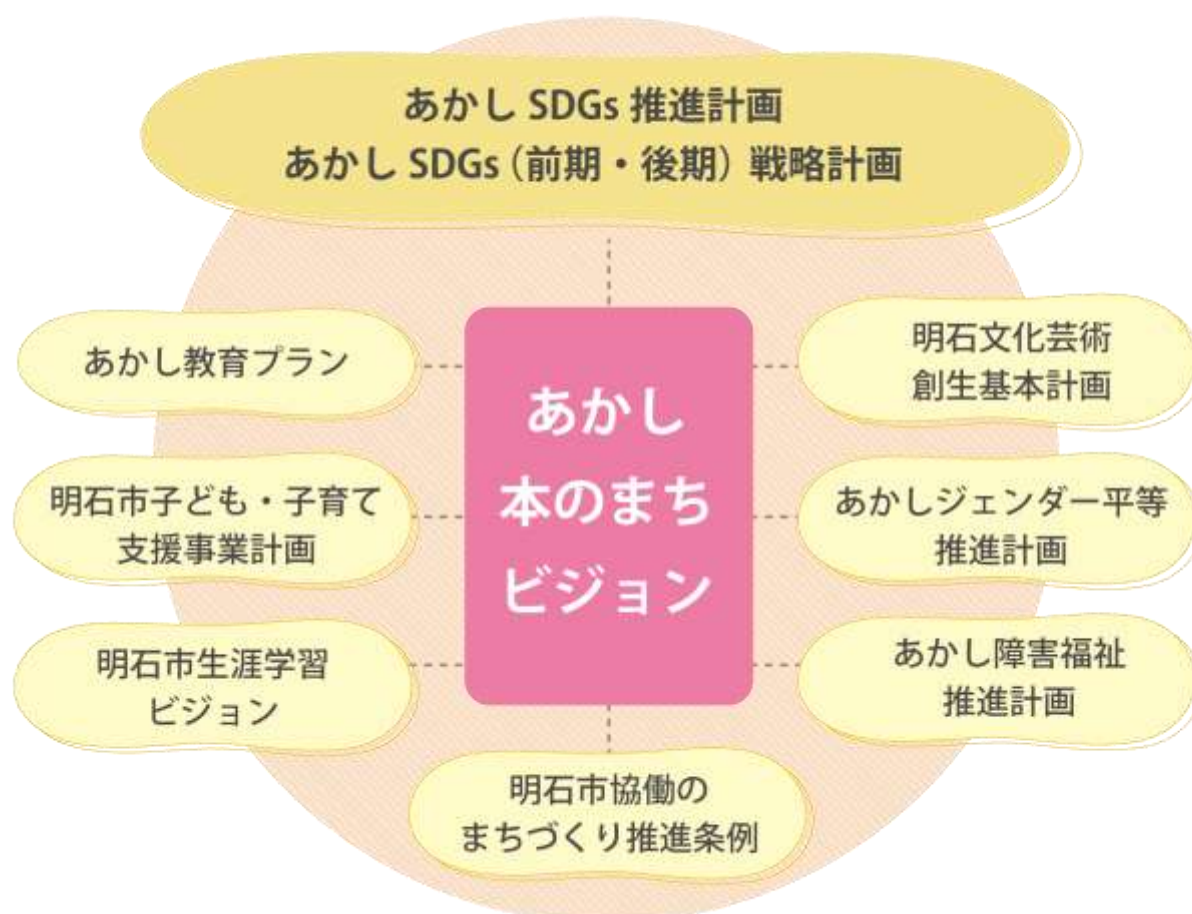
- 1 本のまち明石のこれまでの取り組み
- 2 検討スケジュール
- 3 市民ワークショップの概要
- 4 市民の方などへのヒアリングの概要
- 5 パブリックコメントの概要
- 6 本のまちビジョン検討委員会の概要

あかし本のまちビジョンの位置づけ

当ビジョンは、市の最上位計画である「あかしSDGs推進計画」に紐づくビジョンと位置づけ、「あかしSDGs（前期・後期）戦略計画」に定める「本のまちの推進」の取り組みについて、将来的な「理想の姿」や、より具体的な「取り組みの方向性」を示すものです。

当ビジョンに定める取り組みは、関係各課の取り組みやあかし教育プラン、明石市子ども・子育て支援事業計画、あかし障害福祉推進計画、あかしジェンダー平等推進計画、明石文化芸術創生基本計画、明石市生涯学習ビジョン、明石市協働のまちづくり推進条例など、他の方針や計画と関連する部分について整合性を図りながら一体的に推進していきます。

なお、当ビジョンは将来的な社会の変動など必要に応じて見直していく予定です。



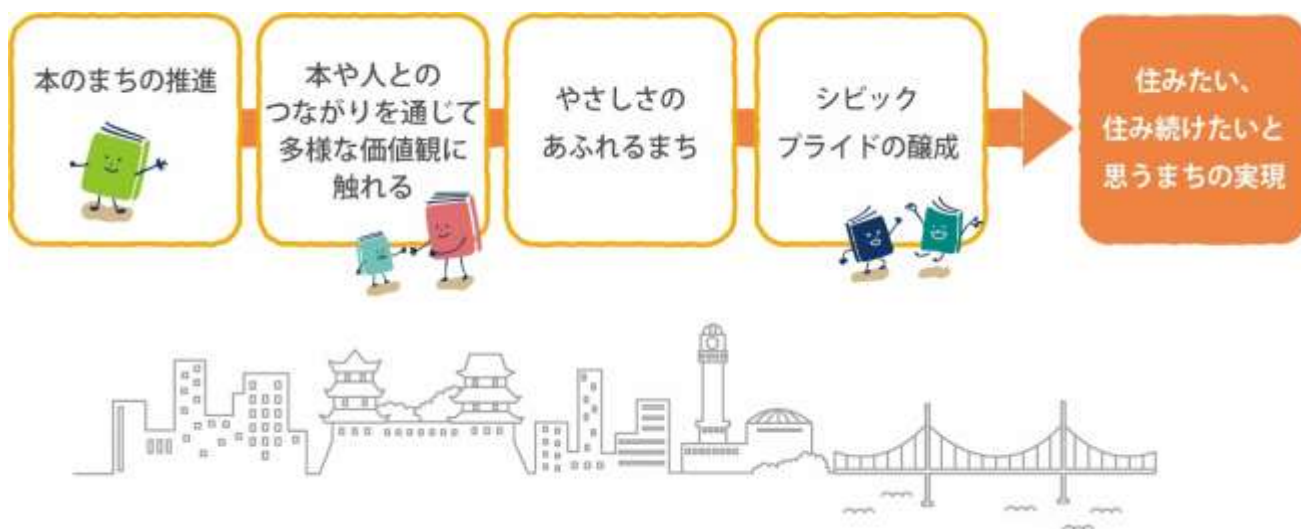
第1章

あかし本のまちビジョン

1 はじめに

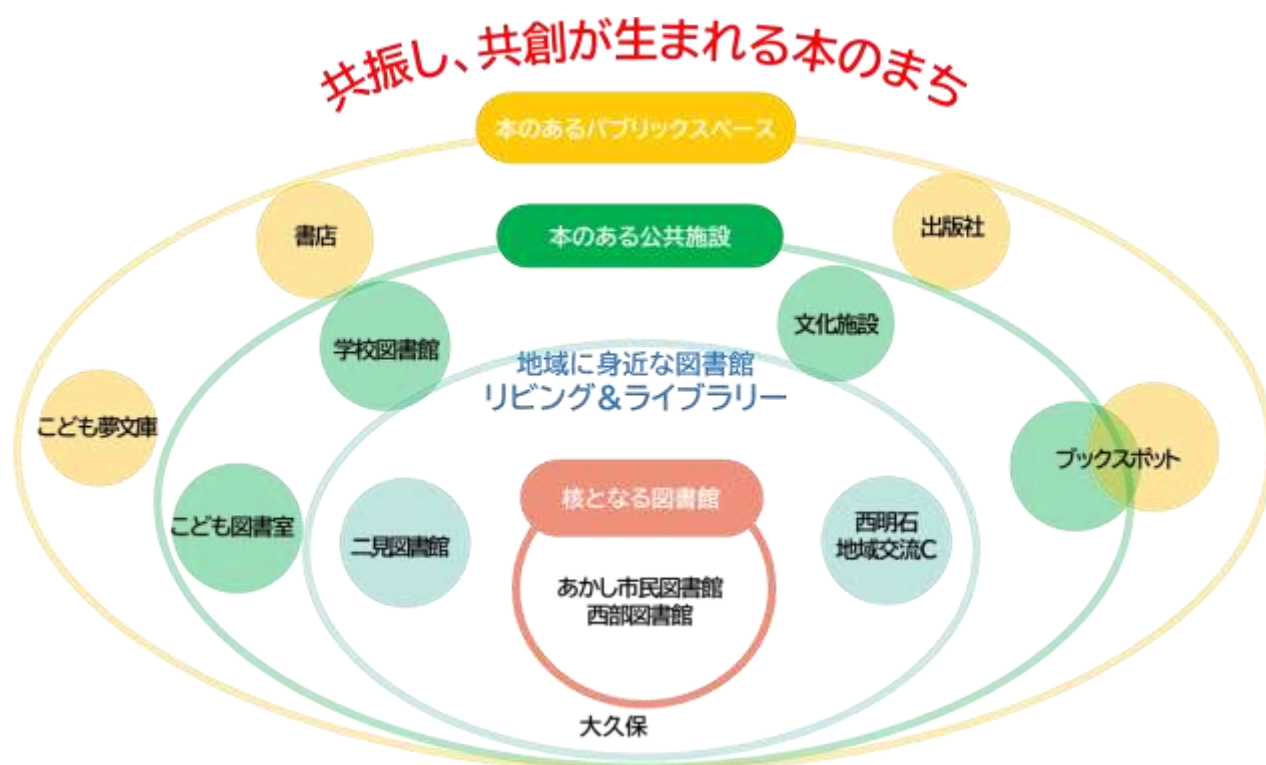
明石市ではこれまで長い間、公共図書館や学校図書館、公営のブックスポットなど本のあるさまざまな場所で市民の方々が読書に親しめる機会を提供してきました。また、家庭においても本に親しんでいただけるような取り組みも実施してきました。これらの取り組みの積み重ねの上に立ち、これらの取り組みのさらなる充実や新たな展開を進めながら、明石の本のまちを推進していきたいと考えています。

本のまちの推進により、子どもから大人まであらゆる人が本に親しみ、本のある場所でさまざまな本や人との出会いを楽しむことができます。読書や人との出会いを通じて、知識を得たり自分と異なる価値観に触れたりすることで育まれる想像力は、明石が目指す「やさしさのあふれるまち」に欠かせないものです。人は想像力を持つことで、知らないことを受け入れ、他者を思いやり、人や社会の多様なあり方を尊重できるようになると考えています。本のまちの推進を通じて明石のまち全体にやさしさを広げ、まちに対する愛着と誇り、そしてより良いまちづくりのために自ら関わっていきこうという気持ち、すなわちシビックプライドを醸成し、誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまち明石を目指します。



これからの明石の本のまちの取り組みをより発展させていくため、公立図書館や文化施設、学校図書館、こども夢文庫、私設のブックスポット、書店、地元出版社など、本に関わる全ての場所や人々とともに本のまちづくりを推進していきたいと考えています。またその結果、本に関わる場所や人、活動同士が共振・共創することで、次々に新たな取り組みが広がっていくことにも期待します。

市全体で進める本のまちづくりの基盤となる考え方として、あかし本のまちビジョンを策定します。

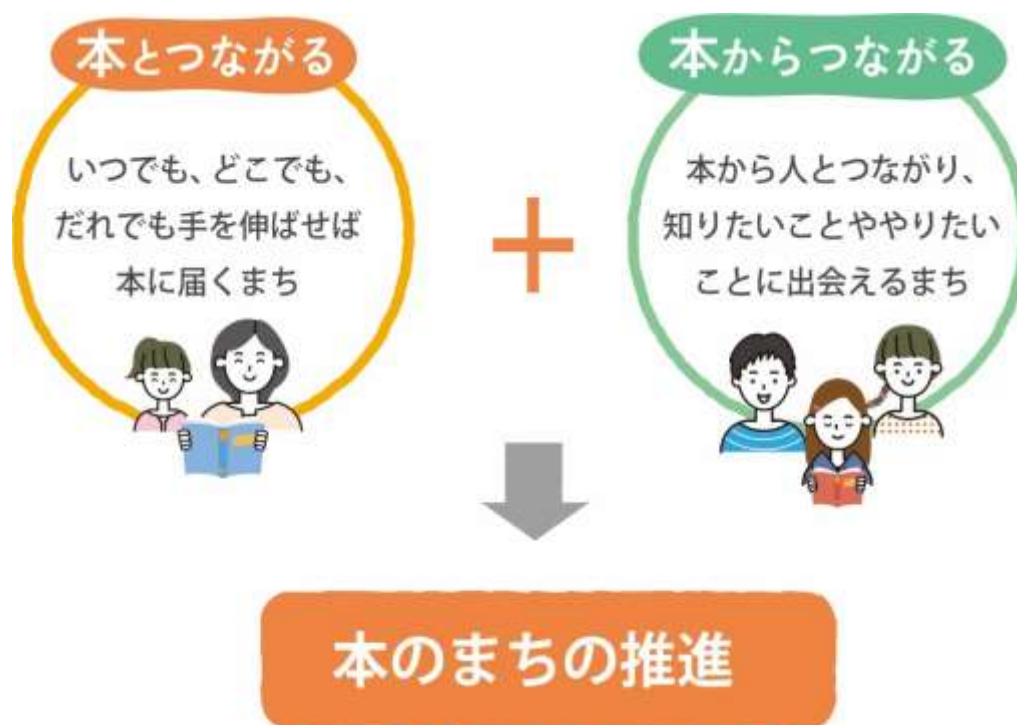


2 本のまち推進の方向性と大切にしたいこと

これまで明石市では、本のまちを推進するため、市民の方々が本に親しめる場所や機会の充実を図ってきました。この取り組みは「いつでも、どこでも、だれでも手を伸ばせば本に届くまち」を目指したもので、市民の方々が「本とつながる」ためのものでした。明石市は今後もこの取り組みのさらなる充実を図っていきたいと考えています。

市民の方々が「本とつながる」ことにより、直接的には知識を得たり、学ぶ手法を学んだり、自己を見つめなおしたり、また単純に楽しんだりすることなどができます。このような本から直接得られるもの以外にも本のまちを推進してきたことで、本について人と話し合うことを楽しんだり、図書館で出会った人とあいさつや雑談をしたり、本に関わる活動を始めたり、本に関わる活動者同士がコラボレーションしたり、本を書くなど本に関する自己表現をしたり、など本に関するさまざまなニーズ・取り組みが生まれています。

このように、市民の方々が「本とつながる」ことから始まっていくニーズ・取り組みへの支援も進めていく必要があると考えています。つまり、明石市は市民の方々が「本からつながる」取り組み、「本から人とつながり、知りたいことややりたいことに出会えるまち」を目指し、関わる方々の支援を行っていきたいと考えています。市はそれぞれのやり方を尊重しつつ、これらの支援を実施していきたいと考えています。



このように明石市では大きく、「本とつながる」「本からつながる」という方向性をもって本のまちを推進したいと考えていますが、その取り組みにあたっては以下のような本のまちのイメージに近づくことを意識したいと考えています。

これらは明石市が思い描くイメージですが、本に関わる全ての場所や人々に広がっていくことにも期待しています。

明石市が目指したい「本のまち」のイメージ

- ① 本に親しみ本が好きになる
- ② 本のある場所に集い自分らしく過ごせる
- ③ 楽しみながら本と人の魅力に触れられる
- ④ ゆるやかで自発的なつながりが生まれる
- ⑤ 読む・知ることによって想像力や創造力を育む
- ⑥ やりたいことにチャレンジできる



明石市はそれぞれの目指すイメージについて以下のように考えています。

目指すイメージ	概要
① 本に親しみ 本が好きになる	年代や住んでいる場所、障害の有無などに関係なく、あらゆる人が本に触れられ、本に親しむことができるようになります。また、子どもたちや普段あまり本を読まない人が本に親しむきっかけとなる取り組みが広がることで、より多くの人が読書を楽しみ、本を好きになることができます。
② 本のある場所に集い 自分らしく過ごせる	一人で静かに過ごしたい人、人の気配がある中で過ごしたい人、人と交流したりつながりたい人など、市民の方々が本のある場所で、それぞれが望む多様な過ごし方ができるようになります。
③ 楽しみながら本や人の 魅力に触れられる	市民の方々が、本のある場所で過ごしたり、イベントに参加したりしながら、それぞれにとっての楽しみを見つけることができます。その中で、手に取った本や出会った人、自分自身、住んでいるまちの魅力に触れ、新たな発見や学びを得ることができます。
④ ゆるやかで自発的な つながりが生まれる	市民の方々が本のある場所や活動の中で、ゆるやかに自然な形でつながっていけるようになります。そのつながりにより、生きがいに結び付くものや社会課題の解決につながるような活動などが生まれます。
⑤ 読む・知ること で想像力や創造力を育む	読む・知ることによって育まれる、想像する力や何かを創り出す力は「生きる力」です。多様な媒体を使った情報の探し方や活用についてサポートが得られる環境をつくり、多くの知識を得て多様な価値観に触れることで想像力や創造力を得られます。
⑥ やりたいことに チャレンジできる	市民の方々が本や本のある場所、本のある場所では出会った人を通じて、やりたいことにチャレンジできるようになります。ボランティアへの参加、イベントの実施、ブックスポットの立ち上げ、本の執筆など、さまざまなやりたいことが実現できる本のまちになっていきます。

3 本のまちが目指すイメージ(全体像)

市内にはたくさんの本のある場所があり、またさまざまな人や団体を主体として本に関する取り組みが行われています。これからの本のまち明石では、「本とつながる」「本からつながる」の2つの大きな方向性と6つの目指したいイメージを踏まえて、それらがつながり、さらに取り組みが広がっていくことを目指します。さまざまな本のまちづくりに関わる主体が交わっていく状況を表現したものが次ページのイメージ図です。

※リビング＆ライブラリー

…基本的な図書館機能に加えて、誰もが過ごしやすい居場所としての機能、交流や情報交換の場としての機能を持つ図書館を表した言葉です。これから整備される二見図書館や西明石地域交流センター内の図書コーナーは、従来のイメージである「静かな図書館」から離れ、おしゃべりしたり、ゆっくりくつろいだりできる、「リビング＆ライブラリー」をコンセプトにしています。

本とつながる



いつでも、どこでも、だれでも、
手を伸ばせば本に届くまち

本からつながる



本から人とつながり、
知りたいことや
やりたいことに会えるまち

本のあるパブリックスペース

市内の書店利用促進



本のある公共施設

本を通じた親子の
コミュニケーション



本に親しみ、
本が好きになる

ひとりでゆっくり
本を楽しむ



読む・知ること、
想像力や創造力を育む



図書館が
活動をサポート



やりたいことに
チャレンジできる

本のまちに関する
情報が充実

絵本で子どもの
育ちを支える



お互いに蓄積した
資料を共有



特別展のテーマに
合った本を置きたいな



こんな本
どうですか？

楽しみながら本と人の
魅力に触れられる



ゆるやかで自発的な
つながりが生まれる



横のつながりが
できる

この前こんな
イベントやったよ

うちでも
やってみたいよ



西明石 R8年度開館予定
地域交流センター

本を通じて
誰かと出会う



文化の蓄積(知)



ボランティアの
活動の場が広がる



本のある場所に集い
自分らしく過ごせる

市(本のまち担当)

本のまちの取り組みを支援し、ゆるやかな
本のまちのネットワークづくりを促進する

↓ 協力・連携 ↑

核となる図書館

あかし市民図書

西部図書館

県立図書館

市立図書館の
バックアップ

大久保

合同誌で連載して
みませんか？

自分の小説を
発表したいな



やりたいことを応援



事業者と
図書館のコラボ



本のまちが目指すイメージ(全体像)



4 本のまちを推進する人や場所

本のまちづくりに関わる人や本のある場所について、今後期待される役割や連携について整理しました。あらゆる人や場が本のまちづくりの主体となる可能性があり、ここで挙げているものが全てではありません。また、期待される役割についても、あくまで現状で想定される内容であり、本を通じてそれぞれの主体が変わることで、新たな取り組みや関係性が創出されることが期待されます。市や市立図書館は、そうした将来における広がり視野に入れた上で、本のまちづくりを支援し、推進していきます。

個人、民間団体、事業者など

主体	役割や連携
市民（個人・団体）	本のまち明石の主役は市民であり、本のまちづくりは、市民の暮らしが本を通じてより豊かになることを目的にしている。市民一人ひとりが読書や本に関する活動に興味を持ち、やがては本のまちづくりに主体的に参加することが期待され、市はそのための環境づくりや支援を行う。
ブックスポット （民間・私設） ～まちの小さな図書館～	期待する役割 - 身近な本のある場所として、地域の居場所や対話・交流の場となる。 - 運営主体や地域特性、ターゲットに応じて、すでに多様なコンセプトのスポットが存在する。特に民間や私設のスポットについては、公営では実現しにくい一分野に特化した取り組みも期待される。 連携の理想像 - 市立図書館がブックスポットのハブ的機能を果たす。 （運営の相談、団体貸出利用、図書館がオーナー同士の交流の場に） - ブックスポット同士の交流が活発化し、新たな取り組みが創出される。 - 公共施設や企業などとの連携事例が生まれる。

主体	役割や連携
こども夢文庫 ～子どもたちと親子の 居場所～	期待する役割 ・ 子どもたちや親子に向けて開かれた、地域住民の子育てを支える場所。 ・ 絵本や児童書、イベントを通じた親子や多世代間の交流の場づくりを行う。 ・ 運営主体は地縁団体やボランティアグループであり、子育て世帯にとって地域とのつながりを持てる場となる。 連携の理想像 ・ 市立図書館やブックスポットとの情報共有を通じて、子育て世帯が図書館や地域のことを知るきっかけづくりになる。 ・ 市立図書館の団体貸出や相談機能の利用、コラボイベントの実施など。 ・ ブックスポットや学校図書館との連携事例が生まれる。
市内の書店	期待する役割 ・ 図書館と一緒に活字文化を支える、誰でも訪れられる本のある場所。 ・ 本の展示や出版社とのコラボなど、図書館と違った視点で実施できる。 ・ 市やブックスポットなどへの書籍販売を通じて本のまちを支える。 ・ 新たな書店の立ち上げや、「ひとり書店」のような取り組みも期待される。 連携の理想像 ・ 書店員と司書の交流機会をつくるなど、図書館との連携がより充実する。ポップ制作講座といった、民間のノウハウを生かしつつ市民が参加できる取り組みも。 ・ 市やブックスポットが市内の書店から図書を購入することで、本のまちの充実と書店事業の持続・発展を図る。
市内の出版社 ～魅力ある人材や資源の 発掘・発信～	期待する役割 ・ 書店と同じく、市内の活字文化を支える役割を持つ。 ・ 明石の魅力ある人材や資源を発掘・発信し、シビックプライドを醸成する。 ・ 自作小説の出版、「ひとり出版社」のような取り組み、新たな市内出版社の立ち上げなど、表現や発信に関する活動の推進において大きな役割が期待できる。 連携の理想像 ・ 民間のノウハウを生かしたコラボ展示や講座を図書館やブックスポット、学校図書館で実施する（出版社なら書き方講座、写真講座、自費出版講座など）。

公共施設

主体	役割や連携
こども図書室 子育て支援センター ～小さな子どもを持つ家族の 居場所～	期待する役割 ・ 絵本やおもちゃ、イベントを通じて親子が楽しい時間を過ごせる場所。 ・ アットホームな雰囲気できれいに訪れられ、子どもを安心して遊ばせられる。子育てに関する相談も受け付ける、子育て世帯を支える施設。 連携の理想像 ・ 市立図書館やブックスポットとの情報共有を通じて、子育て世帯が図書館や地域のことを知るきっかけづくりになる。 ・ 図書館ボランティアがこども図書室で読み聞かせを実施するなど、交流を通じて双方の取り組みの充実や利用の拡大を図る。
学校図書館 ～児童・生徒の読みたい・知 りたいに応える場所～	期待する役割 ・ 小中学生にとって最も身近な本のある場所として、学習センター・情報センター・読書センター機能を備える。 ・ 書籍に限らず新聞、情報誌、漫画、デジタルコンテンツなど、児童・生徒がさまざまな情報媒体に触れられる場として機能する。その際には紙媒体とデジタルのそれぞれの長所を生かし適切なバランスを図る。 ・ 地域住民が図書サポーターになるなど、地域・保護者・学校の接点となる。 ・ 学校図書館の開館時間・日数を工夫し、児童・生徒が本に触れる機会が充実する。また、児童・生徒にとっての居場所としてもより機能する。 連携の理想像 ・ 市立図書館の団体貸出や移動図書館出張により情報量アップを図る。 ・ 市立図書館とのコラボイベントや図書館ボランティア派遣などを通じて、学校図書館に関わる人が多様化し、児童・生徒がさまざまな人と交流することができる。 ・ 担当部局や本のまち担当と情報交換・情報共有しながら、共に本のまちづくりを推進する。

主体	役割や連携
文化施設 (天文科学館・文化博物館など) ～明石を楽しく学べる 発見の場～	期待する役割 ・ 専門的な見地や資源を生かして、市立図書館や学校図書館との連携（コラボ展示やイベント）を行い、生涯学習の推進とシビックプライドの醸成につなげる。 ・ 各施設に設置したブックスポットとなるスペースにおいて、子ども向けに絵本や漫画なども活用しながら専門分野について分かりやすく、かつ楽しく伝える。 連携の理想像 ・ 市立図書館とのコラボ展示・イベントがより充実する。 ・ 施設内のブックスポットに置く本について、蔵書・選書面で市立図書館の団体貸出や相談機能を積極的に利用する。 ・ 他のブックスポットや学校図書館との連携事例が生まれる。
その他公共施設	期待する役割 ・ 例えば厚生館では人権に関する本、防災センターでは災害に関する本を置くなど、施設の目的に応じた情報や学びを市民に提供する。 ・ 各小中学校コミセンなどの公共施設内にブックスポットを設けることで施設を利用するきっかけづくりになり、より立ち寄りやすくなるだけでなく、訪れる人が本に触れる機会づくりにもつながる。 ・ 厚生館やコミセンなどでイベントや講座を行う際、関連書籍を設置したり、どこで関連書籍を借りることができるかなどの情報を積極的に発信することで、本に触れ、学びを深める機会を増やす。 連携の理想像 ・ 施設内のブックスポットに置く本の蔵書・選書や、イベントや講座で紹介する関連書籍の選書について、市立図書館の団体貸出や相談機能を積極的に利用する。 ・ 他のブックスポットや学校図書館との連携事例が生まれる。

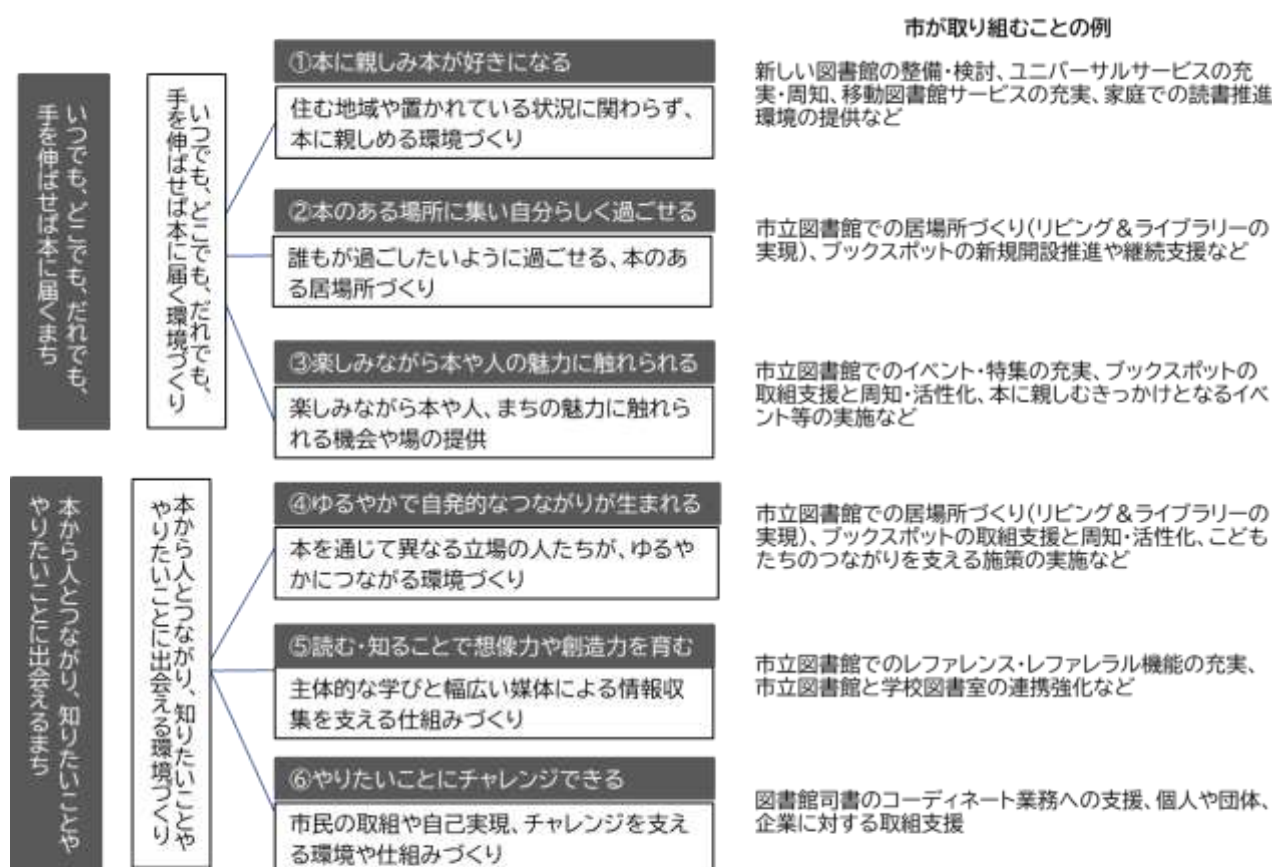
市立図書館と市(本のまち担当)

主体	役割や連携
二見図書館 西明石地域交流センター	期待する役割 ・ 地域に身近な図書館として基本的な情報支援に加え、地域内の個人、団体、ブックスポットなどのコーディネートと活動支援を行う。 ・ リビング＆ライブラリーをコンセプトに、多様な過ごし方を許容する居場所としての機能を有し、また本を通じた対話や交流を促進する。 ・ 地域にまつわる情報の収集・整理・発信・活用を通じて、地域のアイデンティティを形成し、地域住民のシビックプライドを醸成する。 連携の理想像 ・ 図書館司書が、地域の人や、学校、企業、資源などをコーディネートする。 ・ 市民図書館や西部図書館との情報共有と交流を通じて相互活性化を図る。
あかし市民図書館 西部図書館	期待する役割 ・ 豊富な蔵書と職員の専門性を生かした相談業務による情報支援を行う。 ・ 個人や団体、ブックスポットのコーディネートと活動支援を行う。 ・ 団体貸出の利用促進を通じて、本という資源の有効活用につなげる。 ・ 明石にまつわる情報の収集・整理・発信・活用を通じて、明石のアイデンティティを形成し、市民のシビックプライドを醸成する。 ・ 書籍に限らず漫画や新聞、雑誌、電子書籍、デジタルコンテンツなど、市民がさまざまな情報媒体に触れられる場として機能する。その際には紙媒体とデジタルのそれぞれの長所を生かし適切なバランスを図る。 ・ 本を読む、情報を得るだけでなく、表現や発信に関する活動の推進も行う。 ・ 多様な過ごし方を許容する居場所としての機能を有し、場づくりやイベントを通じた対話や交流の促進も行う。 連携の理想像 ・ 図書館司書が、利用者だけでなく明石全体の人や活動、学校、企業などをコーディネートし、本のまちづくりの中核を担う。 ・ 豊富な蔵書やより高度な専門性を生かして他の図書館をサポートしつつ、情報共有・相互交流を通じて双方の活性化を図る。

主体	役割や連携
市（本のまち担当）	本のまち担当の役割 ・ ビジョンに基づいて新しい企画の立ち上げ・実施などを行い、本のまちづくりの全体を見つめながらリードする役割を果たす。 ・ 本のまちに関わりたい人の窓口となり、本のまちの情報を集約・発信する。 ・ 市立図書館司書に対する相談対応・伴走支援を行い、ビジョンに沿った図書館運営を事業者とともに進める。 ・ 図書館とともに本のまちに関わる主体の活動を支援し、時には一緒に取り組む。 ・ ブックスポットやボランティア、NPO などの各主体、及び市役所内の他部署との調整役として対話・共創を促進し、市全体で本のまちづくりを進める。

5 本のまちを推進するために市が取り組むこと

明石市も、本のまちづくりに関わる主体の一つです。本のまちビジョンに基づいて本のまちづくりを進めていくために、6つの「目指すイメージ」をもとに、既存事業も含めた市の取り組みを整理しました。本のまちづくりの広がりに合わせて、市も新しいことに積極的にチャレンジし、柔軟な姿勢で本のまちづくり推進に取り組んでいきます。



基盤となる取組

- ・ ビジョンに基づいて新しい企画の立ち上げ・実施などを行い、本のまちづくり全体を見つめながらリードする役割を果たす
- ・ 本のまちづくりの窓口となり、本のまち全体に関する情報収集や発信、活動の支援などを行う
- ・ 本のある場所や人、他部署との対話・共創を促進し、市全体で本のまちづくりに取り組む
- ・ 本のまちづくりを通じて、ゆるやかなネットワークづくりを進める



第2章

これまでの取り組みとビジョン策定の過程



1 本のまち明石のこれまでの取り組み

これまでの本のまち明石の取り組みを年表にまとめました。

年度	月日	実施内容	備考
2015 (平成 27)	10 月 1 日	電子図書館サービスの提供開始	WEB サイトを通じた電子書籍の貸出、返却、閲覧など
2016 (平成 28)	1 月 27 日	あかし市民図書館 移転リニューアルオープン	開館時間の拡大（平日夜 9 時まで開館）、月曜日の開館、貸出冊数 10 冊から 20 冊に拡大、収蔵能力（約 2 倍）・蔵書数（約 2 倍）・面積（約 4 倍）を拡大
	2 月 7 日	ブックスタートの開始	4 か月健診で、絵本の読み聞かせと「ブックスタートパック」(絵本 2 冊、絵本リスト、読み聞かせのアドバイス集など)をプレゼント
2017 (平成 29)	7 月～	「放課後ブックサークル」の試行	全 28 小学校中 10 クラブで試行
	9 月～	点字図書やデージー資料の郵送サービスの開始	身体障害者手帳 1・2 級を有する視覚障害者を対象にした図書の無料郵送サービス
2018 (平成 30)	5 月 9 日	ブックセカンドの開始	3 歳 6 か月健診で、絵本相談と「ブックセカンドパック」(絵本 5 冊のうちから 1 冊、絵本リスト) をプレゼント
	7 月 1 日	新移動図書館車の配置	県内初、大型・小型の 2 台体制
	7 月 1 日	あかし市民図書館で対面朗読サービスの開始	音訳ボランティアサークル
	7 月～	「放課後ブックサークル」の本格実施	全小学校（28 クラブ）で実施
	7 月 25 日 ～	「あかし保育絵本土（基礎）」養成講座の開始	絵本を通して、子どもの心に寄り添った教育や保育を目指し、豊かでのびやかな育ちを支えられる環境整備を目的として実施
2019 (令和元)	8 月 23 日 ～	「あかし保育絵本土（応用）」養成講座の開始	基礎コース修了者を対象に、基礎講座後の実践発表や意見交換を通じて、更なる能力向上を目指す
		「明石市本のまち基金」の設立 (基金設立セレモニー：令和 2 年 1 月 26 日)	(一財) 公立図書館助成会からの寄附金を原資として「明石市本のまち基金」を設立
		市内貸出冊数 300 万冊達成 (令和元年度実績)	「まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 27 年度～令和 3 年度)」のトリプルスリーのうち「本の年間貸出冊数 300 万冊」を達成

年度	月日	実施内容	備考
2020 (令和 2)	4 月 25 日 ～ 5 月 19 日	「絵本の宅配便」事業を実施 (市立図書館臨時休館中)	コロナ禍において、子どもたちが自宅にいな がらでも絵本に親しみ、保護者の方と楽し い時間が過ごせるよう、希望される家庭に 絵本を配達
	3 月	市立西部図書館のサイン表示を ユニバーサル仕様に更新	
2021 (令和 3)	4 月 1 日	あかし市民図書館開館時間を延 長	開館時間を午前 10 時から午前 9 時 30 分に変更
	4 月 1 日	市立西部図書館で対面朗読サ ービスの開始	
2022 (令和 4)	4 月 22 日	日新信用金庫 10 店舗に明石ま ちなか図書館を開設	信金中央金庫からの企業版ふるさと納税 を活用し、市と日新信用金庫の連携事業 「明石まちなか図書館」をスタート（当初 計画：日新信金 10 店舗＋市内施設 10 カ所）
	7 月 2 日	まちなかブックスポット事業の実施	明石まちなか図書館事業の更なる展開と 本を通じた交流、つながり、自己実現など を目的とした事業。実施は明石コミュニティ 創造協会に委託。「hito-haco」の開設、 明石まちなかブックスポット MAP の作成など を行う
	8 月 17 日	スマートフォンなどでのバーコードに よる図書貸出サービス開始	
	9 月 1 日	男性トイレへのサニタリーボックスの 設置	
	11 月 1 日	iPhone を使った音声読み上げア プリアカウント貸出を開始	
	12 月～	明石まちなかブックスポットパワー アップ助成の実施	まちなかブックスポット拡充支援（書籍購 入、広報、イベント費用など）のための助 成
	1 月 11 日	市立西部図書館ユニバーサル・エ リアの設置	車いす優先席、拡大読書器・音声読み上 げ機席などを配置したエリアを設置
	2 月 4 日	明石まちなかブックスポットパワー アップ勉強会の実施	ブックスポットに関する事例紹介と運営者 同士の意見交換の場

年度	月日	実施内容	備考
2023 (令和 5)		明石コミュニティ創造協会の明石 まちなかブックスポット事業への補 助を開始	・ブックスポット勉強会を実施（全 4 回） ・明石まちなかブックスポットスタート&パワ ーアップ助成の実施
	10 月 1 日	図書郵送サービスを妊産婦に拡 大する「らくママ便」を開始	
		（仮称）二見図書館、（仮 称）西明石地域交流センター内 図書コーナーの整備に向けた取り 組みを開始	
	2 月 21 日	あかし市民図書館に点字ディスプ レイを設置	
2024 (令和 6)	7 月 2 日	あかし市民図書館・西部図書館 へ座席予約システム導入	
	7 月 12 日	西部図書館に点字ディスプレイを 設置	

2 検討スケジュール

市民の方々や有識者などからご意見を伺いながら本ビジョンを策定しました。

2024 年 6 月	市議会総務常任委員会に本のまちビジョンの検討開始を報告
7 月	市民の方への意見聴取を実施（ブックスポット運営者、書店、ボランティア活動者、ボランティアコーディネーター）
8 月	第 1 回本のまちビジョン検討委員会を開催 市民の方への意見聴取を実施（明石市障害当事者等団体連絡協議会）
9 月	市民ワークショップを開催
10 月	関係者への意見聴取を実施（あかし市民図書館司書／学校司書） 市民の方への意見聴取を実施（子育て支援センター来館者） 第 2 回本のまちビジョン検討委員会を開催
11 月	第 3 回本のまちビジョン検討委員会を開催
12 月	市議会総務常任委員会に本のまちビジョンの検討状況を報告 本のまちビジョン素案についてのパブリックコメントを募集開始
2025 年 1 月	パブリックコメントの募集締め切り
2 月	第 4 回本のまちビジョン検討委員会を開催
3 月	

3 市民ワークショップの概要

本ビジョン策定に向けて市民ワークショップを開催し、「これからの本のまち明石」について、参加者の皆さんからたくさんのご意見を頂きました。当日は内容に関心のある 30 名が参加し、前半は①本のまち明石で「こんなことをやってみたい／参加したい」「必要な／あるといいな」と思うこと、後半は②これからの本のまち明石はこんなまち、というテーマについてグループに分かれて話し合いました。

(1)実施概要

開催日時	対象者	場所	参加者数
2024 年 9 月 8 日（日） 午前 10 時～12 時	本に関する活動に携わる方や本が好きな方、内容に関心のある方 など、どなたでも	ウィズあかし フリースペース	30 名





(2)結果概要

①本のまち明石で「こんなことをやってみたい／参加したい」「必要な／あるといいな」ということ

《誰でも本に手が届く環境》

■図書館の利便性

- ・本の返却場所の増設
- ・公的な施設だけでも、本の返却場所を共通に
- ・コミセンで本の返却だけでなく、図書館の本の貸出も
- ・駅で本が返せたらいいな・・・
- ・駅で本を受け取り、返却できたら便利
- ・まち協とかコミセンで借りれたらいいなあ
- ・子育て支援センターと、絵本データを連携してほしい
- ・図書館までの送迎
- ・子どもの一時預かり
- ・冷蔵ロッカーサービス
- ・気軽に開催できるイベントスペース
- ・コンシェルジュをおく
- ・不足のない学習コーナー(150→300)

■本のある場所の充実

- ・本がある場所と読む場所・空間をもっと増やす
- ・学校の近くにブックスポット(こども向け)
- ・本がもっと近くにほしい(清水)
- ・全校区に小学生が自力で行ける本のある居場所
- ・図書館から遠い地域にブックスポットや図書室があったらよい(移動図書館は時間制限あり)
- ・高丘(大久保)エリアにブックスポットや本の場所が少ないので増えてほしい
- ・高丘地区に地域の図書室やブックスポットを(図書館から遠い地域)
- ・小学校コミセン 毎日子どもに開放
- ・市立図書館地域館(大久保地区)
- ・市立図書館地域館(西明石地区)

■移動図書館の活用

- ・子どもたちの下校時間に合わせた移動図書館(気軽に行けるように)
- ・移動図書館が家の近くに来てほしい
- ・明石公園に移動図書館を読んで、読み聞かせタイム(放課後／未就学児向け)

■ユニバーサル

- ・読書バリアフリーに関する講習会
- ・手話で絵本の読み聞かせ
- ・市民図書館のユニバーサルルームを多様な障害者が利用できるようにしたい
- ・文字が大きい本(ご年配の方が読めるように)
- ・ブックスポットでデジ図書を置いてほしい

■本の充実

- ・保育所絵本の充実
- ・子どもがひまになる時間に読める本を学校の玄関に
- ・若い人が本に親しむために漫画コーナーを設置してはどうか(今外国では漫画ブーム)
- ・良い本やロングセラーがなくならないようにしてほしい
- ・もうすこしレベルの高い洋書を学校においてほしい
- ・漫画や電子書籍にも市民権がほしい！
(※これらも読書の対象という認識が根付いてほしい)

《人とつながる/交流》

■つながる機会づくり

- ・コミュニティ
- ・様々な人が集う楽しいイベント
- ・ブックカフェ(本をキーワードに会話するルール)
- ・年齢を問わない交流の場
- ・老人から、子どもたちと一緒に交流しながら本を読んだり話し合う場を持ちたい
- ・1冊の本をみんなで話し合いたい
- ・お話会(読書会) 本を通して人とつながる
- ・年代別(子ども・青年・大人)読書会
- ・いろいろな立場の人の本の紹介
- ・編み物カフェを図書館に
- ・ボードゲーム交流会

■つながるための場所

- ・図書館が居場所になる(心地よい場)
- ・図書館が交流・出会いの場 公民館との融合
- ・高齢者も小さい子も集まれる(おしゃべりできる)場所
- ・おしゃべりスペース
- ・図書館にフィーカ(お茶をする)エリアを作る(図書館)
- ・カフェスペース おしゃべりOK

《本のある場所の活性化や連携》

■ブックスポットの活用

- ・ブックスポットスタンプラリー
- ・ブックスポットでビブリオトーク(本の紹介)
- ・くすのん文庫(魚住のこども夢文庫)に平日午後もっと子どもたちが来るとよい

■学校図書館との連携など

- ・学校図書館の活性化
- ・学校図書館の地域開放(放課後や長期休み)
- ・学校図書館選手権
- ・1校1人司書がいてほしい/毎日いてほしい
- ・学校図書館が自習室に使えるといいな
- ・学校図書館に本を貸してほしい
- ・学校図書館でおはなし会

■こんな場所/スペースがあればいいな

- ・だれでも気軽に立ち寄れるブックスポット
- ・リアル古書店
- ・まちなかで古本カフェ 公園とか
- ・24時間BOOK BAR(ブックバー)
- ・本屋に座って過ごせるスペースを作る
- ・海を見ながら本を読む
- ・こたつやロフトがある

■本の循環

- ・本の交換会
- ・不要になった図書の交換会、持ち寄り会
- ・FreeBook(だれでも置いて持っていける本棚)

《本に親しむ機会づくり》

■誰もが本に親しむ

- ・読書を純粋に楽しんでいい(読書＝勉強だけではない)という意識
- ・本の楽しさを知らない人に知ってもらいたい
- ・大人のためのおはなし会(ストーリーテリング)
- ・今は図書館だけだが、老人会などで紙芝居したい
- ・介護施設での読み聞かせ(紙芝居/えほん/手遊び)
- ・お年寄り多いのに本に触れる機会少なそう・・・
- ・本を10,000冊読破したい(今は8,000冊なので)

■子どもに本の楽しさを伝える

- ・小学生、未就学児に本の手触り、電子書籍でなく”本”で読む楽しさを知ってほしい
- ・下校時間に合わせた図書タイム
- ・全小学校での本読み聞かせタイム 各学校で読む人がいなければ是非行きたい
- ・兄弟姉妹での読み聞かせ(小学校、幼、保)
- ・小学生のうちに本に親しむ為、始業前に1冊読む習慣をつくる
- ・中学生でも遅くない、本の読み聞かせで本を好きになってもらう
- ・小学校で読み聞かせや紙芝居を通して本を好きになってもらう
- ・こども食堂などで読み聞かせをしたい
- ・両親共稼ぎ・シングルマザーの子ども→一斉登校前に地域の方と学校図書館で朝読書・読み聞かせ
- ・読み聞かせ(家庭向き)

■本に関連したイベント

- ・ブックフェス(大きなイベント)
- ・明石公園で読み聞かせイベント
- ・明石公園とかでブックフェア
- ・子どもの読み聞かせイベント
- ・文化博物館で読み聞かせイベント(文化博物館は敷居が高い・暗い・入りづらいなどのイメージあるので)
- ・明石の小学生が選ぶ本総選挙
- ・読書感想文大賞(魚住地域で)
- ・ビブリオバトルもっと開催
- ・ビブリオシアター 図書館で上演
- ・パネルシアター
- ・好きなこと(食べ歩き)×図書館・本・ワークショップ
- ・絵本に出てくるお菓子づくり
- ・「本」をテーマにしたアナログゲーム会 例:みんなで本を持ち寄って
- ・本のラジオ局放送(子ども/おとな)
- ・本の業者を招くイベント

《学びや情報を得る》

■本を通じて学ぶ

- ・図書館で夏休み子ども科学あそび教室(体験して本にもつなげる)
- ・朗読習いたい
- ・本の修理講座
- ・明石で本にまつわる神社(菅原道真)とか
- ・文章教室

■知りたい情報にアクセスできる

- ・専門書の朗読・音声
- ・本⇒検索(例:編み物の本⇒編み物教室)
- ・専門書解説交流会
- ・育児相談 兼 読書サポート

■市からの情報発信

- ・本に関する研修会などの情報をもっと積極的に発信してほしい
- ・色々な年代の人に対して異なる形で今の取組を伝える
- ・「本のまち明石」の情報紙、情報サイト
- ・図書館の使い方を広く知ってもらいたい
- ・情報データの公開と共有
- ・明石まちなかブックスポットマップの設置場所の啓発このマップをたくさんの人に見てもらいたい
- ・図書館の利用方法がたくさんあることを知ってもらう(例:勉強、子どもの居場所)

《本のまちを支える人の活性化》

■ボランティア

- ・読み聞かせサークル/ボランティアが市内のあちこちに
- ・ブックパパ/ブックお兄さん
- ・ボランティアスタッフ(緑のおじさんのような)(緑のおじさん＝スクールガード、シニアボランティア)
- ・読み聞かせの講習会
- ・読み聞かせボランティアの学習会や交流会
- ・小学校図書ボランティアの交流会・研修会
- ・読み聞かせの講習会がもっとあるとよい
- ・図書ボランティアの交流会・研修会
- ・「はとの会」として読み聞かせをしたい(「はとの会」＝ボランティアグループ)

■創り手

- ・小・中学生向けクリエイターコンクール
- ・クリエイター支援WEBベース
- ・クリエイターの支援

②これからの本のまち明石はこんなまち

●誰でも本に手が届く

- ・市立図書館から遠い地域の人が徒歩で行けるスポット(学校図書館など)
- ・ブックスポットへのアクセスのしやすさを高める
- ・本へのアクセスの地域差をなくす(学校図書館の活用)
- ・ユニバーサルルームを視覚障害者だけでなく、多様なハンデを持つ人が使えるように
- ・本のまちビジョン検討委員会に視覚障害当事者として参加したい

●コミュニティ/場づくり

- ・高齢者から子どもまで、本を通して交流する場
- ・図書館やブックスポットが、人を支えたりつなげたりできる場に
- ・本があるだけでなく、読むための居場所がある
- ・居場所・コミュニティづくり

●本がある場所の利便性やモノの充実

- ・各スポットの選書(人気優先だけでは残らない良書も出てくる。誰が選書するかも重要)
- ・幼・保・小・中のモノ(本)・ヒトの充実
- ・本(図書館)利用の利便性を高めたい(駅で返却、子ども預かりなど)
- ・まちなかに返却不要の本棚があるといい(不要な本の流通)
- ・利便性/快適さ

●ブックスポットのあり方など

- ・各ブックスポットでテーマを絞ったり特化させて、公共施設との違いをつくる
- ・移動図書館とブックスポットの連携やコラボなど

●本を通じて楽しむ

- ・おしゃべりから始まる可能性(編み物、お茶など)楽しい気持ちになる
- ・勉強のためでなく、楽しいから話す、伝えたい(※本を楽しむことで交流が生まれる)
- ・楽しい図書館づくり、フィーリングを大切にする
- ・盛り上がり おしゃべり解禁
- ・リアルな本の良さ
- ・本という世界の入口をもっと広げよう(ゲーム、マンガなど)
- ・読み聞かせ、スタンプラリー、公園でのイベント
- ・海+本(海を見ながら読書するなど、明石らしさを大切にする)

●情報発信

- ・本に関わる取り組み・情報の発信
- ・図書館サービスについて、できることを集約してみんなにももっと知ってもらう
- ・公共図書館をもっと行きたくするような工夫が大事(広報、活用方法)

●仕組みづくり

- ・コアとなる図書館(5カ所)が情報や人をつなぐ役割を担う
- ・図書館司書がコーディネーターとしての役割を担う
(人や場所同士をつなげる、利用者の話を聞いて求める情報や活動につなげるなど)
- ・図書ボランティアの交流や研修
- ・読み聞かせなどを「やりたい人」と「やってほしい人」をつなぐ仕組みをつくる

4 市民の方などへのヒアリングの概要

ワークショップ以外でもさまざまな方から意見を頂くために、それぞれの活動の取り組み状況や課題だと感じていること、本のまちに期待することなどについて市民の方々や関係者にヒアリングを実施しました。

ブックスポット：ふくやま病院（西新町駅前）	● 立ち上げ時のクラウドファンディングで繋がった人たちとの活動を再開させ、取り組みの活性化を図りたい。 ● 図書の再整備を行いたい。例えば書店と連携し、図書内容を検討するなどの取り組みも検討したい。 ● 他の病院でも取り組みが広がるように働きかけたい。 ● 人とのつながりが希薄になっているという問題を感じる。本は社会とつながるきっかけになる可能性がある。本のテーマによって集まったり話し合ったりなど本によって人とつながるような形になれば良い。 ● 本を読まない人でもそのテーマに沿って話し合ったりすることもできる。本からつながる緩やかなコミュニティが形成されるようになれば良い。
ブックスポット：行こうよ♪みんなの本棚へ（大久保町西島）	● ブックスポットについては、助成金など何らかの支援がないと継続が難しい。 ● ブックスポットの認知向上が必要。まずどのようなものなのか知って貰う必要がある。 ● そのうえで、本の冊数の情報だけでなく、どのような本があるのかまでわかるような情報提供ができるようになれば来訪者も増えるのではないかな。
ブックスポット：あかしのよみば（西明石）	● 新しい人へのアプローチが難しいがクチコミにより徐々に利用者を広げたい。 ● ブックスポットという活動自体を知らない人が多い。市は、ブックスポットが100か所を超えた、とかトピックス的な出来事があればこまめに発信をしてほしい。 ● 活動者同士の交流や図書館とブックスポットとの連携が進めば良い。 ● 明石の色々な人のオススメ本を紹介するような取り組みがあっても良いのではないかな。
ブックスポット：シェア本棚明石（魚住町西岡）	● クリエイターの応援をしたい。地域を盛り上げるために本を書いたり、絵を描いたりするようなクリエイターを育てることも必要。 ● 現在の取り組みをビジネスモデルとして確立し市内各所への展開を目指したい。

ブックスポット／夢文庫：魚住こども夢文庫（魚住小学校）	● 小学生を中心とした利用層となるため午前の利用者が少ないことが課題。幼稚園生の親の認知度が低かったため、ここへ訴求したことで午前の利用数が向上した。 ● 保育所が年少でも預かるようになったこともあり、市内の夢文庫全般の利用者数が減っている。 ● ブックスポット数が多いがその存在が知られていない。認知の向上が必要。
図書ボランティア：おはなし隊ブックママ 1 3 5°（中崎小学校）	● 若い人たちも活動に参加しているが、担い手の面で不安。ただ、必要な人たちができる範囲でやってくれると思うので、あまり気負わずにやっていく。 ● 昔は図書館でボランティアの勉強会があったが今はない。そのような取り組みも必要かと思う。
ボランティアコーディネーター：中脇健児氏	● 図書館で個人のコミュニティを促進するよりは、例えば図書館と社協や図書館と地域団体、図書館と NPO などの連携を通じて団体間の連携が生まれるような形になるのが良いと考える。 ● 現在の活動の中でパラソル付の本が運べる屋台を作成して地域に出向き、さまざまな場所で小さな場を作れるような仕掛けができないか検討している。そのようなアウトリーチができればヤングケアラーの発見など福祉課題の解決のきっかけになるようなこともできるのではないかと考えている。 ● 本×教育や本×福祉、本×にぎわいづくりなど、本を介するコミュニティの形成により、市の課題解決のきっかけになるような取り組みができると考えている。
商業者：ジュンク堂書店（パピオス明石）	● 図書館との連携は現状の取り組み以外には行っていない。本を扱うという土台は共通しているが、営利・非営利という目的の違いもあるので連携がなかなか進まない部分がある。 ● 活字離れを感じている。もっと活字に触れて欲しい。こどものころから読書に親しむ環境を作るのが有効と考える。このあたりの取り組みについて期待したい。
商業者：巖松堂書店（大久保駅前）	● 個人書店の売上は減少傾向にあり、市内の個人書店数も減少している。 ● 本のまちとして全国に目立つような取り組みを期待したい。例えば、独自の文学賞をつくり、大賞者は市内の出版社から出版できる、といった取り組みが実施できるとより盛り上げていくことができるのではないかな。 ● 保育絵本士講座の取り組みを保育士以外にも対象を広げれば良いのではないかな。

あすく（明石市障害当事者等団体連絡協議会）	● 図書館について、無料給水スポットの設置や喫茶スペースの拡充、雑誌の充実、返却ポストの数拡充、司書の人数増加（人対人だと検索機よりスムーズに必要な情報に辿り着ける）を図って欲しい。 ● 本のまちについて、以下のような取り組みがあると良い。 ➢ 駅のコンコース広場に自由に本を置ける／持ち帰りできるスポットがあるといい ➢ 駅の中などに小さな読書スポット ➢ 明石ならではの「時の記念日」などに図書カード配布 ➢ 図書館で貸出スタンプカード（貯めたら何か特典）
こども図書室（子育て支援センター）利用者	● こども図書室は、子どもを安心して遊ばせられる場所であり、絵本選びのポイントなどスタッフに尋ねられる。また、手遊びなどのイベントがあるので訪れるきっかけになる。イベントや貸出期限などがアプリで確認できるとよい。 ● 図書館については小さい子ども連れ（ベビーカー）では大久保から電車で行くのが大変。大久保に図書館ができるのが楽しみ。 ● 図書館に子どもを安心して遊ばせられたり、子どもを連れてゆっくりくつろげる場所が増えるとよい。 ● 子育てについてなど、ちょっとした相談ができる人がいると利用する人が増えそう。
学校司書	● 学校図書館から各クラスに貸し出す学級文庫は小・中とも子どもたちに好評。 ● 始業前 10 分程度の「朝読書」は、子どもたちの集中力などに好影響だが、最近では学習に充てられることが増えている（授業数不足、英語の教科化）。 ● 2 校兼務や配置換えの頻度から、学校や子どもたちとの関係性構築が十分でないと感じる。 ● もっと図書委員と一緒に利用促進に向けて取り組みたいが、図書委員会（会議）と勤務日が合わないなど、なかなかうまくいかない。 ● 図書館司書がおすすめ本を紹介しに来てくれたり、学級ごとに定期的に貸出したりしてもらえると、学校図書館に無い本を子どもたちに読ませてあげられる。

図書館司書（あかし市民図書館・西部図書館）	● 従来の図書館像にプラスアルファした図書館を目指して取り組んでいるが、うまくPRできていないと感じる。 ● 学校や地域との連携についても、図書館側からアプローチすることがほとんどで、「図書館で何ができるか」が知られていない。広く周知していく必要がある。 ● 登録ボランティアである「市民による夢の図書館プロジェクト（D チーム）」では、ボランティアが主体的に話し合い、やりたいことを企画化している。 ● ブックスポットの運営者とは実際に話をする機会がなく、どういった人が運営しどういった困りごとがあるかも分かっていない。 ● ブックスポットの蔵書を図書館の団体貸出で賄うことで、本の活用・循環につながり、ブックスポット助成金ももっと他の部分に充てられるのではないかと。
------------------------------	---

5 パブリックコメントの概要

本のまちビジョン検討委員会、市民ワークショップ、市民の方などへのヒアリングを経て策定したビジョン素案について、下記の通りパブリックコメントを実施しました。

■ 意見募集期間

2024 年（令和 6 年）12 月 20 日（金）～2025 年（令和 7 年）1 月 20 日（月）

■ 募集結果

5 名の方から 15 件の意見を頂きました

頂いたご意見の内容

※該当箇所は「明石市本のまちビジョン素案」の内容

該当箇所	ご意見の内容
4 ページ	「本や人との出会い」とありますが、その人というのは本の中の人なのか、現実の人なのか、ピントがボケています。本を読んで人の生き方に出会うのは当たり前のことです。
4～7 ページ	本のまちを掲げることは素晴らしい取組で、本を通して居場所をつくり、人と人がつながっていくこと、やさしさあふれるまちづくりも大事だと思いますが、そもそも「本を読む」こと自体の意味やその大切さが抜けてはいるのではないのでしょうか。本を読むことが当たり前に「いい」というだけではなく、その意味がないと、本が単にまちづくりの手段にされているように感じました。子どもに「何で本読まないとかんの？」と聞かれたときに答えられるものが必要ではないのでしょうか。
7 ページ 3 行目 いつでも、どこでも、だれでも、手を伸ばせば本に届くまち	将来も含め図書館の数、ブックスポットの数を考えると、その理想に近づいていると思います。しかし数や場所があっても実際に手を伸ばしている人がいるかどうか。問題はブックスポットの認知度でしょうか。また振り向けばそこに本があり、手に取ってみようという作りをしているかどうかでしょうか。
8 ページ ⑥やりたいことにチャレンジできる	二見図書館でボランティア活動「えほんの読み聞かせ」に参加したいです。

該当箇所	ご意見の内容
P 10 の図及び P 16 の市の役割	核となるのが公共図書館で本のまち全ての中心に位置していますが、指定管理制度により運営されている図書館でどれだけ中心の役割が担えるのか心配です。図書館は利益を生み出す場所ではないだけに、指定管理料の中で働く図書館司書にしわ寄せがいかないよう配慮が必要だと思います。また、このビジョンが成功するのかは、人にかかっていると思います。特に図書館司書、学校司書など、本と人をつなぐための専門職の方たちを大事にしていきたい、つまり人にはお金をかけてほしいということです。専門職は専門職、ボランティアはボランティア、それぞれがちゃんと活躍できるよう市が主導して進めていただきたいと思います。 また、市の役割は一番重要で、現在、市の職員の方で図書館のこと、本のこと、分かっておられる方はいらっしゃるのでしょうか。図書館に指定管理制度が導入され始めた頃、自治体側の図書館業務のノウハウが失われていくことが危惧されていました。今回のビジョンの中で核の中には「市（本のまち担当）」も入るべきで、この図では図書館任せになっていないでしょうか。
13 ページ 学校図書館の期待する役割、 連携の理想像	明石が本のまちになっていくには長い時間をかけ醸成していくものと考えます。そのために一番大事なのは子どもです。子どもが本と出会い育っていかないと、本のまちは一部の本好きの人だけのビジョンになってしまうのではないのでしょうか。地域にブックスポットや図書館があっても家庭環境等によりどの子ども通えるわけではありません。だから、何より一番大事なことは学校図書館の充実で、蔵書と人を備える必要があります。現在、明石では学校司書が2校兼務などで勤務されていると伺いました。資格を持つ司書が1校専任で毎日勤務し、いつでも子どもたちが学校図書館で本に出会え、学習できる環境づくりが大事だと思います。全国的にも学校司書が充実しているところは本当に数少ないので、子育てを大切に、本のまちを掲げる明石こそ先進的に取り組んでいただきたいと思います。
25 ページ 9月8日ワークショップ結果「本のある場所の充実」	ブックスポットの認知向上が必要。まずどのようなものなのか知ってもらう必要がある。市内を歩いていても、なかなか明石まちなかブックスポットのロゴを見かけることがありません。まず人の目に入ることも大事かと。明石まちなかブックスポットのPRグッズが少ない気がします。スタッカーシールの大・中・小、ポスターなど充実させて欲しいです。ブックスポットによってはステッカーが剥がれていたり、旗も古びてしまっています。

該当箇所	ご意見の内容
—	図書館がやられている「ゆーっと読書会」に数回参加しましたが、話し合いの進め方からも、熱意が感じられませんでした。なんのために開催しているのか、不明でした。参加者の定員が 10 人では、応募を躊躇すると思います。ただ単に業務をこなしている感じがします
—	ウイズ明石がやられている「本を通して自分と向き合う時間」は人と人を繋ぐ素晴らしい取り組みだと思いました。10 人程度となっていますが、参加者は多く、グループ分けするなど工夫がされています
—	【市内読書会の PR と支援について】 明石は読書会が盛んで「本のまち明石」を特徴づけている要素のひとつである点も訴求してはいかがでしょうか。・ウィズあかし「本をとおして自分と向き合う時間」：隔月開催。参加者は常時二桁、20 名を超えることも。神戸、姫路、加古川からも参加・あかし市民図書館、西部図書館の 2 館で毎月開催。「ふたみん」も？また、更なる広報活動（特に小中高生向け）、市民レベルの読書会の登録制度等の支援もお願いしたいです。
—	本好きにするには、幼児期の体験が大事だと思います。もっと数多く読み聞かせの機会を増やしてあげてください
—	色々な所に本を届ける取り組みはいいことですので続けていただけたらと思います
—	【司書の充実】 子供たちの読書促進に向け将来的に市内のすべての小中学校に専任司書の週 5 日駐在を目指してはどうでしょうか（素案 P25 にも 1 校 1 人司書希望と記載されています）。東京都荒川区ではそれにより生徒の本の貸し出しが 3 倍になったそうです。
—	本離れが進んでいることをどうするのかという視点がないと思います。また、どのような【人生を送ってもらおう】としているのかというような大きな視点が見えません。
—	私は、認知症の予防に関心があります。読書はインプットで、人との語らいはアウトプットで、インプットだけでは、認知症まっしぐらです。いくら「本のまち」と実現しても認知症患者が増えるのは辛いですね。医療費削減からも、本を増やすだけでは、明石市の未来は明るくなりません。

6 本のまちビジョン検討委員会の概要

令和 6 年度、本に関わりの深い市民や若者代表、有識者などを委員とした「本のまちビジョン検討委員」を開催し、全 4 回にわたって本のまちビジョン策定に向けた議論を重ねました。

(1)検討委員

会長	吉成 信夫	本のまちづくり推進アドバイザー (元 みんなの森 ぎふメディアコスモス 総合プロデューサー)
委員	木原 明美	二見西まちづくり協議会事務局長／まちなかブックスポット運営者
委員	佐伯 亮太	播磨町まちづくりアドバイザー／佐用町縮充戦略アドバイザー
委員	嶋田 学	京都橘大学文学部歴史遺産学科 教授
委員	瀬尾 真理子	フリーランスライター・編集者
委員	平賀 研也	日本大学芸術学部/桃山学院大学 非常勤講師
委員	横山 鈴音	大学生（令和 3 年度あかし SDGs 推進審議会委員、小学 6 年生 時ビブリオバトル@あかし優勝）

(敬称略・委員氏名は五十音順)

(2)実施概要

	開催日	内容
第 1 回	2024 年 8 月 6 日	本のまち明石の現状と課題について
第 2 回	2024 年 10 月 24 日	本のまちビジョン骨子案について
第 3 回	2024 年 11 月 19 日	本のまちビジョン素案について
第 4 回	2025 年 2 月 4 日	本のまちビジョン案について

(3)結果概要

第 1 回

項目	主なご意見
ビジョンの位置づけ	● 「あかし SDGs 前期戦略計画」に紐づく ● 「本のまちづくり」＝「豊かな心を育む文化芸術の推進」に位置づけ ● 本のまちが目指す先（つながりや居場所づくり）を考えると、他の分野にも波及する可能性

重視したい価値観	● 価値をどうつくるか ● 市民がどう参画するか ● インクルーシブ（いつでもどこでもだれでも） ● 具体的な明石の暮らしに根付いた視点
検討の切り口	● 「本のまち明石」イメージ図の解像度を上げる ● 人の暮らしを起点に議論したい ● 世代ごとに柱を設定する ● 特定の視点から本のある場所を分析
市立図書館の役割	● 人と人をつなぐコーディネート ● 来館者の思いを引き出し活動につなげる ● 行政情報や地域情報の閲覧機能
仕組みづくり	● 情報交換・情報発信 ● ボランティアの連携や横断的な活動を支える
市民の参画	● 「本のまち」に市民がどう関わるか ● 「自分は本のまちに関わった」と思ってくれる市民を増やしたい
本のある居場所や交流の場	● 出合いや交流のある図書館 ● 1人でも許容する居場所としての図書館 ● 本を通じて語り合える場づくり
場所や人の連携	● ボランティアや司書などの横のつながり ● 1人の生活者から見た機能的な連携 ● 学校図書館との連携（子どもが本に触れるきっかけ、情報教育、デジタル教育など） ● 文化博物館や天文科学館などとの連携

第2回

※項目は第2回開催時点の「本のまちビジョン骨子（構成）案」の内容

項目	主なご意見
骨子（構成）案全体について	● 本のまちづくりは市民主体で進めていくもの ● 本のまちビジョンと各政策部門（他の計画など）との関わりを示す ● 昔から活動してきた人を新たに「本のまち」で括ることになる。押しつけにならないように ● 取り組みや連携を規定しすぎず、「何を目指すか」「市は何を応援するか」を伝える

項目	主なご意見
骨子（構成）案全体	● 本のまち全体で重視する価値を「リビング＆ライブラリー」に込める？ ● 本のまちづくりを改めてスタートする宣言のようなビジョンになるのでは ● 行政以外にも分かりやすい表現で、文章の主語をはっきりさせたい ● 見た人が同じ方向性を感じられるようなビジョンに
I. 本のまちの推進により目指す成果	● 「自分らしくある」「他者への想像力」のような内容を入れたい ● ビジョンでは本に何を求めるか。情報か、情緒的なものか
II-1. 本のまち明石の目指すイメージ	● 連携の中に企業（事業者）も入れたい ● 場所と場所だけでなく、人と人の連携のイメージを表したい ● 黒枠四角内の内容が重要。各場所のあり方とリンクした内容に ● 各場所が円で分かれているのではなく、人や場所が交わっていく図に ● ポジティブな意味での「つながる」が押し出されてすぎている。もう少し幅広いものを包含するビジョンにしたい
II-2. 本のある場所の理想像	● 本のまちで各場所や取り組みをどう捉え、何を期待し、どう支援するか示す ● 紙／デジタルの使い分けについて言及する（特に学校図書館） ● 現場の図書館司書に対して何を期待するか、市がどう支えるか ● 書店、出版社については事業持続に何が必要かという視点も必要
II-3. 本のまちの連携の理想像	● 将来的にさまざまな可能性があり現時点では全て想定しきれない。そのことを前提に書く ● II-2 をしっかり検討することで自ずと見えてくる部分もある
III. 本のまち明石で大切にしたいこと	● 柔らかい表現で見た人が共感できる内容に。「守るべきルール」ではなく「こうなったら楽しい」という内容に ● 陳腐化しないようエッセンスを盛り込んでしっかり市の思いを込めたい ● この部分がビジョンになるのでは
IV. 市が取り組むことについて	● 本のまち全体の情報を集約し発信する役割が重要 ● 市の主な役割を各主体の応援だとすると、現状の書き方は強調されすぎているのでは

第3回

※項目は第3回開催時点の「本のまちビジョン素案（原案）」の内容

項目	主なご意見
タイトル	● 何がビジョンなのか分かりにくい。「本とつながる・本からつながる」なのであれば全体のタイトルにサブタイトルとして追加しても良いのでは
1 はじめに	● 本を読むことでどう「やさしいまち」につながるかの説明をより丁寧にしたい ● 本のまちビジョンは色々な人や場所が共振し共創することを期待するもの。そのことをどこかに記載するべきではないか ● 「3 本のまちが目指すイメージ図（全体像）」とは別に、検討初期に事務局から提示されたシンプル版をビジョンの最初に載せた方が分かりやすいのでは
2 本のまち推進の方向性と大切にしたいこと	● 本は想像（創造）力や生きる力を育むことができるもの。このことは重要な要素なので大切にしたい6つのイメージのどこかで触れても良いのではないかと ● 「知りたい情報」だけでなく「知り方」を得られることの方が大事ではないか ● 大切にしたい6つのイメージの「本のある場所でくつろぎ、過ごしたいように過ごせる」は「本のある場所に集い、それぞれが過ごしたいように過ごせる」という表現にしてはどうか
3 本のまちが目指すイメージ図（全体像）	● 明石市独自の取り組みである「あかし保育絵本土」も記載すべき ● 「身近な本のある公共スペース」という表現を「本のある公共施設」に修正したい
4 本のまちを推進する人や場所	● この2項目は一つにまとめたほうが良い ● 民営の施設と公営の施設を分けたほうが良いのでは。また現在は本を置いていない公設の場所も加えて記載できないか ● どのような場所かをわかりやすくするため、それぞれにキャッチフレーズがほしい
5 本のまちを推進する人や場所の連携	● 図書館の役割は地域情報の収集だけでなく、地域の情報を作っていくことも含まれる ● これからの図書館は情報支援だけでなく、活動支援を行っていくことも重要 ● 図書館は交流したい人や元気な人だけでなく、例えば引きこもりの子にとっての居場所にもなり得る。その内容をビジョンにも
6 本のまちを推進するために市が取り組むこと	● 「基礎となる取組」に「これからの学びを支える」「共に創り上げていく」を入れたい
第2章 ビジョン策定の過程	● 本のまちは突然始めるものではない。これまでの取り組みをまとめて掲載してはどうか

第4回

※項目は第4回開催時点の「本のまちビジョン案（原案）」の内容

項目	主なご意見
ビジョン全体	● 表現や漢字表記に揺れがある。統一した方が読みやすい ● 漢字が多く見えるので、全体的にひらがな多めでやさしい文体に
タイトル	● 行政感が強いのでやさしいものにしたい ● サブタイトルを付けた方がいい
1 はじめに	● 「シビックプライド」という言葉はあまり一般的ではない。注釈があるほうが分かりやすい 「なぜ本のまちづくりを進めるか」について ● 本のまちづくりを進める理由、言い換えれば特に「本」を取り上げる理由について触れた方がいい。例えば本の楽しみ（ワクワク感や疑似体験）や web との違いなど ● 本や読書が大切であるということは、各々の口から出るべき言葉だと思う。あえてビジョンの中では言わないことで広がり期待したい ● ビジョンに明記しないとしても、市としての答えは持っておいた方がいい
3 本のまちが目指すイメージ図（全体像）	● 市（本のまち担当）を中心に置くことで、市が主導していく意図を示したい ● 「公共スペース」を「パブリックスペース」に変更したい
4 本のまちを推進する人や場所	● 「図書館の運営管理」という書き方は市と図書館が従属的に見えるので変更したい ● 本のまち担当が全体の戦略を、図書館が現場を担うイメージ ● 本のまち担当は庁外・庁内の調整役として対話・連携を促進していく役割 ● 本のまち全体の司令塔として、戦略的に主導していく役割を果たしてほしい
ビジョン概要版の作成について	● 子どもが見ても「本のまちビジョン」の内容が分かるような概要版にしたい。 ● 説明ではなく、例えば目指すイメージ①～⑥のそれぞれから想定される場面やエピソードをイラストにして伝えてはどうか ● 概要版は A5 サイズの冊子やリーフレットだと手に取りやすいと思う
令和7年度以降のビジョン活用・推進について	● 新たな本のまちづくりのキックオフとして、市民が集まってビジョンについて語る場を ● 本のまちを認知するためにも、人が集まる場所で見えるように、フラットな対話の場を継続していく必要がある ● 誰かが本のまちに関する活動や取組に関する体験を語ったり、アイデアが出て実行する場がほしい

あかし本のまちビジョン

2025 年(令和 7 年)3 月 31 日

■お問合せ■

明石市プロジェクト推進室本のまち担当

電 話 078-918-5209

F A X 078-918-5136

メー ル hon_akashi@city.akashi.lg.jp